2011 年度

M4 カリキュラム

Phase II　臨床実習

医療概論 IV

クリニカル・クラークシップ I

2011 年 4 月～2011 年 8 月
2008 年入学　第 35 回生用

筑波大学医学群医学類

http://www.md.tsukuba.ac.jp/md-school/syllabus.thml

目次

M4 カリキュラムの概要 ····· 1

1 学期

医療概論 IV・　　クリニカル・クラークシップ I

A. 小括講義 ····· 2

＜臨床医学系＞
消化系
循環
神経系
呼吸系
血液系
内分泌・代謝系
腎・泌尿系
皮膚・形成系
免疫・アレルギー
生殖系
妊娠と分娩
小児の成長／発達と疾患
麻酔・救急・臨床薬理
腫瘍学総論
放射線の原理
老化
漢方医学
輸液の基本
医用機器と人工臓器
臓器移植

＜社会医学系＞ ····· 5
医療と社会
医療と環境

B. 症候・病態からのアプローチ（large group case study 形式） ····· 6

C. Pre-C.C.・身体診察演習 ····· 7

1. オリエンテーション
2. 医療面接　※
① コミュニケーション実習 1
② コミュニケーション実習 2
③ コミュニケーション実習 3
3. 身体診察 ····· 7
① 総論・バイタルサイン
② 乳房
③ 頭頸部
④ 胸部 ····· 7

⑤　腹部
⑥　神経
⑦　筋骨格系
⑧　泌尿・生殖
4.患者の心理・精神面の評価
5.医師の守秘義務とモラル
6.診療録・プレゼンテーション
7.EBM の実践
8.医療安全　※ ····· 8
9.　病院実習 ····· 8
①　チーム医療実習
②　検査部実習
③　手術部実習
④　薬剤部実習
⑤　輸血部実習
⑥　医療情報部実習
⑦　基本手技　（BLS、採血・静注・点滴、切開・縫合）
⑧　コミュニケーション実習 3

☆Pre-C.C.サブプログラム『英語で医療面接』

※は医療概論 IV として単位認定(M4 必修科目)

共用試験 CBT と OSCE

D.専門科目（自由科目） ····· 9

アドヴァンストコース

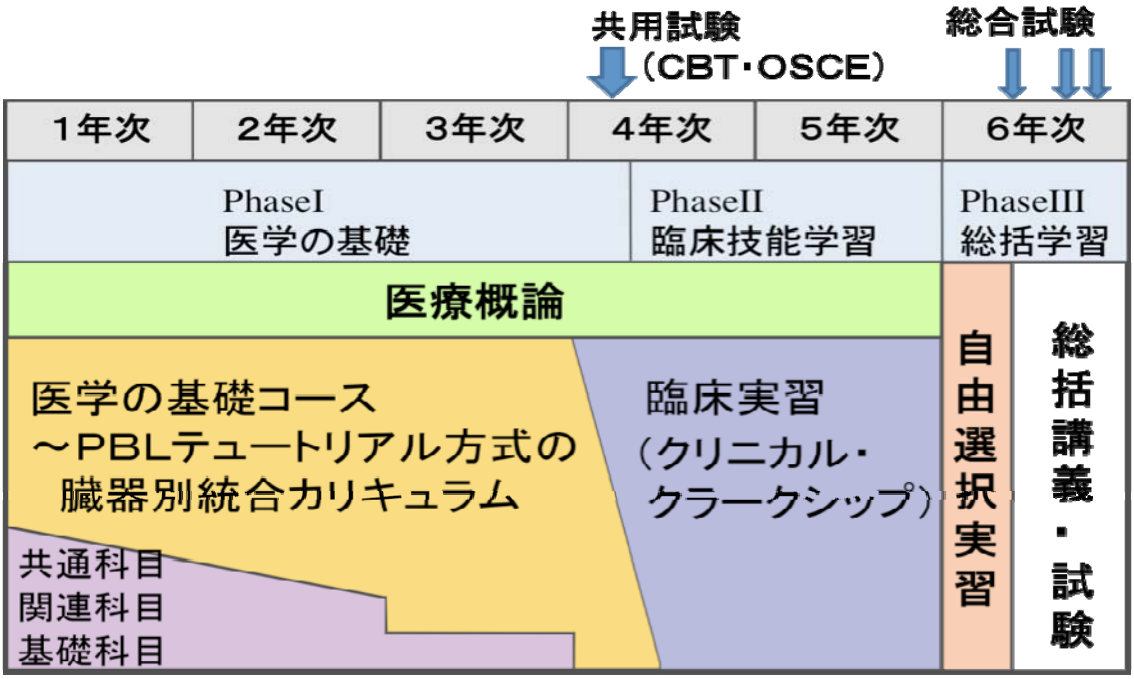
2 学期 ····· 9

C.C.1～3 / CPC ····· 9

M4 カリキュラム概要

１学期はクリニカル・クラークシップにむけての講義、演習を行う。６月下旬に共用試験ＣＢＴ、ＯＳＣＥによる評価を経て、実際に診療グループの一員として実習に参加する１年半にわたるクリニカル・クラークシップが８月末にスタートする。

６月末～７月はじめに、行われるアドヴァンストコースはフロンティア医科学の学生と合同で開設しているもので、いずれかのコースを履修することを強く推奨する（コース説明・募集の詳細は５月上旬に掲示）。



A.小括講義

モデルコアカリキュラムに含まれる内容のうち 1) M1～3の医学の基礎コースで取り上げられなかった項目
2) M1～3の医学の基礎コースで修得した知識を踏まえて、再度確認が必要と思われる重要項目にくわえ、
クリニカル・クラークシップを行うにあたり、事前に身につけておくべき知識・項目の習得をねらいとする。

＜臨床医学系＞

	学習項目	担当教員	Keywords
1	消化管疾患の診断と治療	兵頭　一之介	アカラシア、逆流性食道炎、胃炎、胃潰瘍、食道癌、胃癌、悪性リンパ腫、消化管間葉系腫瘍(GIST)、小腸腫瘍、炎症性腸疾患、大腸腺腫、大腸癌、内視鏡検査、造影検査、組織検査、集団検診、免疫便潜血反応、腫瘍マーカー、(CEA,AFP)、内視鏡的治療(EMR,ESD)、放射線治療、抗癌剤(化学療法)
2	胆肝膵疾患の外科治療	大河内信弘	周術期管理、外科栄養、外科代謝、外科感染症、食道癌、手術
3	外科周術期管理	寺島　秀夫	周術期管理、外科栄養、外科代謝、外科感染、食道癌、手術
4	消化管の外科治療	稲川　智、 久倉　勝治	胃癌、大腸癌、炎症性腸疾患、手術
5	心不全と心血管系画像診断の最前線	瀬尾　由広	左心不全、呼吸困難、湿生ラ音、肺水腫、III 音 右心不全、浮腫、Frank-Starling 法則
6	心臓血管外科手術の最前然	榊原　謙	心カテーテル検査、PCI、カテーテルアブレーション 低侵襲手術の実際と合併症について
7	不整脈治療の最前線	関口　幸夫	カテーテルアブレーション、抗不整脈薬 植え込み型除細動器
8	胎児、新生児期心臓病	堀米　仁志	胎児心不全、胎児・新生児不整脈、新生児持続性肺高血圧、動脈管、出生前診断・治療
9	主要な変性性神経疾患	玉岡　晃	痴呆、Alzheimer 病、血管性痴呆、Parkinson 病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、脳炎、髄膜炎、脳膿瘍
10	主要な免疫性神経疾患	石井　亜紀子	多発性硬化症、ニューロパチー（栄養障害、中毒、遺伝性）ギラン・バレ症候群、ベル麻痺、神経痛（三叉・肋間・座骨神経痛）、重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、周期性四肢麻痺、ミトコンドリア脳筋症
11	脳神経外科疾患各論（1）	中井　啓	脳血管障害、脊椎疾患、頭部外傷、感染性疾患
12	脳神経外科疾患各論（2）	井原　哲	脳腫瘍、小児脳神経外科疾患、水頭症、脳神経疾患
13	気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患	檜澤　伸之	吸入ステロイド薬、ステップ分類、喫煙、ガイドライン、肺気腫、慢性気管支炎、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、包括的呼吸リハビリテーション

	学習項目	担当教員	Keywords
14	間質性肺炎	石井　幸雄	特発性間質性肺炎(IIPs)、特発性肺線維症(IPF)、薬剤性肺炎、膠原病肺、じん肺
15	呼吸器病の診断と治療	鬼塚　正孝	標準治療、補助治療、手術適応、非観血的治療、侵襲、機能温存
16	糖尿病	小林　和人	1型DM、2型DM、 Glucose tolerance test (GTT)、HbA１c、C-peptide、糖尿病性合併症（急性、慢性)、食事療法、運動療法、経口血糖降下薬、インスリン療法
17	甲状腺・上皮小体疾患	矢藤　繁	甲状腺腺腫、Basedow 病、橋本病、上皮小体腺腫、上皮小体過形成、
18	視床下部・下垂体疾患	高橋　昭光	下垂体腺腫、神経内分泌、Cushing 病、 先端巨大症、尿崩症、SIADH、負荷試験
19	副腎疾患	鈴木　浩明	副腎腺腫、副腎癌、副腎過形成、 Cushing 症候群、デキサメサゾン抑制試験、原発性アルドステロン症、副腎不全
20	頸部腫瘍の症例、副腎腫瘤の症例	原　尚人	①甲状腺癌、バセドウ病の手術、周術期管理、 ②原発性、続発性上皮小体機能亢進症の手術、 術前部位診断③副腎腫瘍の手術、周術期管理
21	造血器腫瘍	千葉　滋	急性白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫
22	止血困難	長谷川雄一	血小板、凝固カスケード、特発性血小板減少性紫斑病 DIC、血友病
23	造血幹細胞移植・検査値異常	鈴川　和己	MHC、拒絶、GVHD、幹細胞、無菌治療
24	尿細管間質障害の診断と治療	鶴岡　秀一	代謝性アシドーシス、アルカローシス、高Na 血症、低Na 血症、高K 血症、低K 血症、高Ca 血症、低Ca 血症、急性腎不全、慢性腎不全、血液透析、腹膜透析
25	糸球体障害の診断と治療	楊　景堯	腎炎症候群、糖尿病性腎症、一次性糸球体疾患、二次性糸球体疾患、CKD 分類
26	泌尿器良性疾患の診断と治療	島居　徹	尿路結石症、尿路感染症、前立腺肥大症、他
27	泌尿器悪性疾患の診断と治療	西山　博之	尿路上皮腫瘍、前立腺癌、腎細胞癌、精巣腫瘍
28	炎症性皮膚疾患（1)	川内　康弘	細菌感染症、心筋感染症、ウイルス感染症、性行為感染症、ハンセン病、抗酸菌感染症
29	炎症性皮膚疾患（2)	石井　良征	アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、中毒疹、炎症性角化症 水泡症
30	腫瘍性皮膚疾患	中村　泰大	悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、Paget 病 Bowen 病
31	婦人科疾患の臨床的管理法１（悪性疾患)	沖　明典	子宮頸癌、子宮体癌、悪性卵巣腫瘍、絨毛性疾患、手術療法、化学療法、放射線療法
32	婦人科疾患の臨床的管理法２（良性疾患)	佐藤　豊実	子宮筋腫、子宮内膜症、良性卵巣腫瘍、 月経異常、不妊、子宮奇形、後年期障害

	学習項目	担当教員	Keywords
33	分娩の臨床的管理法	藤木　豊	正常分娩の経過、胎児心拍数陣痛図、産科手術、帝王切開術
34	産科疾患の臨床的管理法１（母体）	小倉　剛	切迫早産、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離
35	産科疾患の臨床的管理法２（胎児）	小畠　真奈	子宮内胎児発育遅延、胎児形態異常、胎児 well-being
36	小児のクリニカル・クラークシップ	須磨崎　亮	救急疾患、プライマリ・ケア、感染予防、事故防止
37	小児の吐・下血を来す疾患	小室　広昭	急性胃腸炎、消化性潰瘍、メッケル憩室、腸重積症、腸回転異常症、胆道拡張症、壊死性腸炎
38	腹部腫瘤を来した症例	新開　統子	小児固形腫瘍、神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、奇形腫、横紋筋肉腫
39	熱傷	西野　衆文	熱傷範囲、熱傷深度、Artz の基準、Baxter 法、HLS 法、局所療法
40	救命・救急処置	安田　貢	トリアージ、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫心マッージ、除細動、静脈路確保、不正脈、
41	全身麻酔と麻酔前投薬	猪股　伸一	術前患者のリスク評価、モニタリング（BIS など）、麻酔前投薬、吸入麻酔（MAC など）、静脈麻酔、麻酔深度、全身麻酔からの覚醒状態と評価
42	癌の症候、診断、治療の選択と成績	櫻井　英幸	がん治療、各種放射線治療
43	乳房腫瘤の症例	坂東　裕子	線維腺腫、乳腺症、のう胞、葉状腫瘍、乳癌
44	薬物動態	本間　真人	薬物血中濃度、薬物代謝酵素
45	有害作用	本間　真人	添付文書、適正使用
46	医薬品開発	幸田　幸直	臨床試験（治験）、薬物動態
47	薬害	幸田　幸直	添付文書、副作用、副作用被害者救済制度
48	放射線防護	大原　潔	発がん、確率的影響、実効線量
49	老化	阪本　直人	高齢者虚弱、CGA、総合評価、介護予防
50	漢方医学の基本１、２	加藤　士郎（野木病院）	西洋医学、代替医学、漢方医学、EBM、NBM、随証療法
51	輸液の基本１	大坂　佳子	体液区分、体液調節、水分、電解質の１日必要量、維持輸液
52	輸液の基本２	山下　創一郎	高張性脱水、低張性脱水、晶質液、膠質液、輸液の指標

	学習項目	担当教員	Keywords
53	医用機器と人工臓器	松下　昌之助	人工心肺、人工弁、人工血管、心臓ペースメーカー、ICD、血液透析
54	臓器移植	福永　潔	生体ドナー、脳死ドナー、心停止ドナー、セシピエント、グラフト、拒絶反応、臓器保存、免疫抑制法、虚血再灌流障害

＜社会医学系＞

	学習項目	担当教員	Keywords
55	保健医療制度	大久保一郎	医療提供者（医師、コメディカル）、医療供給体制（病院、診療所等）、医療管法規（医療法、医師法等）、医薬分業
56	医療費と医療保険制度	大久保一郎	国民医療費、健康保険の種類、診療報酬制度
57	高齢者保健福祉と介護保険制度	柳　久子	ゴールドプラン21、健康日本21、介護予防、高齢者の介護、在宅介護、施設介護、介護保険、居宅サービス、施設サービス、介護老人保健施設、介護老人福祉施設
58	人口統計と保健統計	高橋　秀人	人口静態統計、人口動態統計、疾病の定義と分類、疾病傷害、統計
59	疫学とその応用	我妻ゆき子	疫学の概念、疫学指標、記述疫学、分析疫学
60	生活習慣病の危険因子、国民栄養	山岸　良匡	高血圧、高血糖、脂質異常症、肥満、身体活動、喫煙、飲酒、心理社会要因、社会経済要因、国民健康・栄養調査、健康増進法、健康日本２１、食事摂取基準、食塩摂取量、脂肪エネルギー比、食育基本法
61	社会学特別講演会	堀　裕行 （厚生労働省）	医療行政

B　症候・病態からのアプローチ

モデルコアカリキュラムで提示されている重要な症候で、主にＭ１～３のテュートリアルで取り上げられなかった症候について、主訴から病態、鑑別診断を考えるケーススタディを行う。症候学１～５では、各症候のケーススタディに加えて、病態から診断を考える際の基本的なアプローチ法についての講義が含まれる。

	症候項目	担当
1	頭痛	前野　哲博
2	悪心・嘔吐	前野　貴美
3	意識障害・失神	高屋敷明由美
4	全体倦怠感	前野　哲博
5	発熱	前野　貴美
6	便秘・下痢・吐血・下血	松井　裕史
7	黄疸	安部井誠人
8	腹痛	鈴木　英雄
9	貧血	千葉　滋
10	リンパ節腫脹	大越　靖
11	浮腫	夛田　浩
12	動悸	斎藤　知栄
13	胸痛	佐藤　明
14	呼吸困難・咳・痰	坂本　透
15	肥満・やせ(体重減少)	鈴木　浩明
16	運動麻痺・筋力低下	石井　一弘 詫間　浩
17	けいれん	渡邊　雅彦
18	えん下困難・障害	田渕　経司
19	尿量・排尿の異常	森戸　直記 関戸　哲利
20	腰背部痛	坂根　正孝
21	感染症	小林　裕幸

C　Pre-C.C.・身体診察演習

Coordinator ： 前野　哲博

１～７の学習目標

クリニカル・クラークシップで診療グループの一員として実習を行うために必要な、以下の項目の習得を目標とする。

１）医療面接の意義について説明できる。
２）基本的なコミュニケーション技法について理解し、実践できる。
３）診断に必要な病歴情報を効率よく収集できる。
４）病歴および身体所見から鑑別診断を行うまでのプロセスを説明できる。
５）基本的な系統的な身体診察ができる。
６）自ら診察した身体所見を正確に診療録に記載できる。
７）POMR の概念に基づいた診療録の記載ができる。

全体実習の日程及び内容

	時限	演　習　項　目	場所	担当教員
4/11（月）	2	Pre-CC 準備教育オリエンテーション	臨床講義室Ｂ	前野　哲博
4/18（月）	2 4、5	Pre-CC 準備教育「患者の心理・精神面の評価」 コミュニケーション実習①	臨床講義室Ｂ 4A121	朝田　隆 横谷　省治
4/21（木）	3 4 5	身体診察総論・バイタルサイン１ 身体診察総論・バイタルサイン２ 乳房の診察	臨床講義室Ｂ 4A121 4A121	徳田　安春 徳田　安春 原　尚人
4/27（水）	2	Pre-CC 準備教育「医師の守秘義務とモラル」	臨床講義室Ｂ	大塚　藤男
4/22（金）	1、2	Pre-CC 準備教育「EBM-1」	臨床講義室Ｂ	前野　貴美
4/26（火）	4	Pre-CC 準備教育「EBM-2」	未定	前野　貴美 横谷　省治
5/19（木）	3	診療録（POMR、POS）	臨床講義室Ｂ	高屋敷明由美
5/20（金）	4、5	診療録プレゼンテーション	未定	前野 哲博 高屋敷明由美

グループ演習の日程及び内容

	時限	演　習　項　目	場所	担当教員
4/22（金）	4、5	頭頸部の診かた	別紙参照 オリエンテーションで配布	各診療科の教員
4/27（水）		胸部の診かた		
5/6　（金）		腹部の診かた		
5/9　（月）		筋,骨格系の診かた／泌尿生殖器系の診かた　※		
5/10（火）		神経系の診かた		
5/12（木）		コミュニケーション実習②		

※ 『頭頸部の診かた』から『コミュニケーション実習②』までの項目は各４グループずつ受講し、６日間（６回）で全項目を終了する。

※ 筋・骨格系／泌尿生殖系の診かたでは４時限目に筋・骨格系、５時限目に泌尿・生殖系の実習を行う。

教科書・参考資料

１）診察と手技が見える vol.2（MEDIC MEDIA）編集：古谷伸之、２）身体所見からの臨床診断　編集：宮城征四郎、徳田安春、３）臨床実習開始前の「共用試験」の OSCE 学習・評価項目（共用試験機構）

８.医療安全：診療計画・対話・良い医療を考える。　　Coordinator ： 本間　覚、大原　信

良い医療を目指すために、診療計画を立案・決定し、実行する過程において、リスクや患者の価値観に配慮し患者の理解を得ながら診療を進める考え方を学ぶ。

	時限	演　習　項　目	場所	担当教員
4/18（月） から 4/28木)		医療安全オリエンテーション コア・タイム２回 診療録の書き 発表会（演劇形式）	臨床講義室Ｂ	本間　覚 大原　信 本間　覚

9. **病院実習**

一般学習項目（ＧＩＯ）

ヒトの構造と機能の基礎、ヒトの正常と病態（基礎医学、臨床医学、社会医学）で学習したことを、臨床実習に応用して患者の有する身体的・心理的・社会的問題を解決するために、診療の基本を修得し、診療マナーを体得し、それらがチーム医療によってはじめて可能となることを身を持って学習する。

① チーム医療実習　　Coordinator ：奥野　純子、柳　久子
② 検査部実習　　Coordinator ：川上　　康、渡辺　重行（心電図）
③ 手術部実習　　Coordinator ：高橋　宏、左津前　剛
④ 薬剤部実習　　Coordinator ： 幸田　幸直、本間　真人
⑤ 輸血部実　　Coordinator ： 長谷川雄一
⑥ 医療情報部実習　　Coordinator ： 大原　信
⑦ 臨床基本手技　　Coordinator ：玉岡　晃
水谷太郎（一次救命処置）
大久保英樹（切開、縫合）
松下昌之助（静駐、採血、点滴）
⑧ **コミュニケーション実習** 3　　Coordinator ：木澤　義之

詳細はPre-CC オリエンテーションで配布される実習ガイドラインを参照

☆ Pre-CC　サブプログラム　　Coordinator：宮増　フラミニア
英語で医療面接を実施する。お互いに医師役と患者役を交互に体験する。

臨床実習開始前の「共用試験」
6 月 15 日（水）CBT（Computer Based Test）
知識の総合的理解力をコンピューターを用いて客観的に評価する。

6 月 23 日（木）OSCE（Objective Structured Clinical Examination）
診療に参加する学生に必要な基本的診療技能・態度について、客観的臨床能力試験で評価する。

専門科目**＜自由科目＞**
アドヴァンストコース〔M4　6月27日～7月1日〕　　Coordinator：玉岡　晃、水上　勝義

医学類4年次対象の専門科目（自由科目）として開設する。
ヒトの正常な構造と機能について基礎医学、臨床医学について一応の理解をした後に、それまでの授業では取り上げられなかった学際的な問題について、最新情報を交え深く掘り下げた学習をする。2 単位取得を推奨する。
〔評価〕原則として試験にはよらず、出席、課題についてのレポート、関係論文の要約など、担当 Coordinator の判断で実施する。詳細は5月上旬に掲示する。
シラバスは医学類のホームページ、カリキュラム案内の「アドヴァンストコース」を参照のこと。また教務第一に閲覧用を準備する。

2学期
＜クリニカル・クラークシップ＞
臨床技能学習（ C.C.1～3）と CPC　実習ガイドライン参照
実習ガイドラインはガイダンスで配布する。日程は後日掲示
（ガイダンスは6月上旬と8月26日（金）に予定）

PhaseII　臨床実習
Clinical Clerkship I

カリキュラム

2008 年入学　第 35 回生用
2009 年　学士編入学 9 回生用
2011 年発行

〒305-8575
筑波大学医学群